

第三者審査報告書

「富士通グループ社会・環境報告書 2013【詳細版】」は、第三者機関「新日本サステナビリティ株式会社」による審査を受け、審査報告書を掲載しています。



独立した第三者による保証報告書

2013年8月9日

富士通株式会社
代表取締役社長 山本 正巳 殿

新日本サステナビリティ株式会社

代表取締役

坂本 健司



1. 保証業務の対象及び目的

当社は、富士通株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社が作成し会社のウェブサイト上に開示した「富士通グループ 社会・環境報告書 2013【詳細版】」(以下、「レポート」という。)について限定的保証業務を実施した。

本保証業務の目的は、レポートに記載されている平成24年4月1日から平成25年3月31日までを対象とする会社及び関係会社の環境会計情報及び重要なサステナビリティ情報^{*1}(以下、「指標」という。)が、レポートの作成基準^{*2}及び会社の定める方針・基準に従って測定、算出、報告され、かつ、重要な事項が漏れなく開示されているかどうか、並びにGlobal Reporting Initiative(以下、「GRI」という。)のアプリケーションレベルに関する自己宣言がGRIの定める基準に準拠しているかについて保証業務を実施し、結論を表明することである。

レポートの作成責任は会社であり、当社の責任は独立の立場から指標に対する結論を表明することにある。

^{*1} 重要なサステナビリティ情報は、「サステナビリティ報告審査・登録マーク付与基準」(サステナビリティ情報審査協会 平成23年2月改訂)が規定する情報を指す。

^{*2} レポートの作成基準は、「環境報告ガイドライン(2012年版)」(環境省 平成24年4月公表)及び「サステナビリティ レポーティング ガイドライン第3.1版」(Global Reporting Initiative 2011年3月改訂)を基にし、開示の対象となる重要な情報の特定については「サステナビリティ報告審査・登録マーク付与基準」に従っている。

2. 実施した保証業務手続の概要

当社は、「国際保証業務基準3000(改訂)過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(国際会計士連盟 2003年12月改訂)、及び「サステナビリティ情報審査実務指針」(一般社団法人サステナビリティ情報審査協会 平成24年12月改訂)に準拠し、限定的保証業務を実施した。当社の実施した業務は、合理的保証業務に比較してより限定的な手続であり、合理的保証業務に比較して高い水準の保証を与えるものではない。

当社の実施した保証手続の概要は以下のとおりである。

- ・ 会社のレポートの作成基準及び会社の定める方針・基準に関する閲覧、質問
- ・ 指標に関する内部統制の整備状況に関する本社及び工場・事業所における質問、資料の閲覧
- ・ 指標に対する本社及び工場・事業所における分析的手続の実施
- ・ 一部指標に対する本社及び工場・事業所における試査による根拠資料との突合・照合、再計算
- ・ GRIアプリケーションレベルに関する自己宣言のGRIの定める基準への準拠に関する資料の閲覧、質問

保証の対象とし、保証手続を実施した指標は、「(別紙)本レポートにおける保証対象指標」に示す。

3. 結論

当社が実施した保証手続の範囲では、指標がレポートの作成基準及び会社の定める方針・基準に従って測定、算出、報告され、かつ、重要な事項が漏れなく開示されていない並びにGRIのアプリケーションレベルに関する自己宣言がGRIの定める基準に準拠していないと認められる事項はすべての重要な点において発見されなかった。

4. 独立性

会社と当社の間には、一般社団法人サステナビリティ情報審査協会の「倫理規程」に定められる利害関係はない。

以 上

(別紙)本レポートにおける保証対象指標

・環境

保証対象指標	頁
◆温室効果ガス(GHG)の排出量の削減 (GHG 総排出量を 2012 年度末までにグローバルで 1990 年比 6%削減する) の実績	54
◆ファクトリーでの改善(化学物質) (重点化学物質の排出量を 2012 年度末までに 2007 年度比 10%削減する)の実績	54
◆ファクトリーでの改善(廃棄物) (廃棄物発生量を 2012 年度末までに 2007 年度比 20%削減する)の実績	54
◆物流・輸送時の CO2 削減 (国内輸送 CO2 排出量を 2012 年度末までに 2008 年度比 15%削減する)の実績	54
◆事業活動における環境負荷(2012 年度) INPUT 化学物質 水 エネルギー(製造) OUTPUT 化学物質 大気排出(製造)~CO2,CO2 以外の温室効果ガス 大気排出(製造)~NOx,SOx 大気排出(物流)~CO2 排水 廃棄物	61
◆環境会計実績	64~65
◆【グラフ】温室効果ガスの総排出量推移	124
◆【グラフ】再生可能エネルギー	127
◆【表】GHG プロトコルスタンダードに基づく温室効果ガス排出量の報告 ・自社(scope 1, 2) 直接排出、エネルギー起源の間接排出 ・下流(scope 3) 輸送・配送(下流)国内輸送	130~131
◆【グラフ】廃棄物発生量および有効利用率の推移	140
◆【表】廃棄物発生量・有効利用量・最終処分量の内訳	140
◆【グラフ】水使用量および循環水量の推移	142
◆【グラフ】重点化学物質排出量の推移	143
◆環境に関する債務	146
◆地下水汚染が確認されている事業所	148~149
◆【グラフ】国内輸送 CO2 排出量推移	163

・社会

保証対象指標	頁
◆全グループ横断的な CSR 活動の推進 ISO アンケート対象範囲(グループ会社数等の数値)の実績	20
◆社内浸透 全従業員を対象とした CSR 重要課題に関するアンケート回答数の実績	20
◆ICT による信頼と安心の確保 コミュニケーション基盤を統一したグループ会社と人数の実績	20
◆個人の活躍支援 女性リーダー向け育成プログラム受講者数、女性幹部社員比率、障がい者雇用率の実績	20
◆ワークライフバランスの促進 制度利用状況(育児休暇、妻の出産休暇)の実績	20
◆グローバルリーダーの育成 関連教育プログラム受講者数	20
◆ステークホルダー・コミュニケーション 報告書アンケート実施状況(回答者数)の実績 近隣住民との定期的なダイアログ実施状況(回数)の実績	20
◆ステークホルダーとのコラボレーション クラウドを活用した環境生物調査ツールを無償提供した団体数の実績 有識者ダイアログ実施状況(回数)の実績	20
◆社会との共生 地域と結びついた社会貢献活動の社内データベース登録件数、被災地ボランティア派遣数の実績	20
◆【グラフ】女性幹部社員比率	228
◆【グラフ】障がい者雇用率の推移	229
◆【グラフ】従業員数/平均年齢	230,338
◆【グラフ】地域別従業員数	231,338
◆【グラフ】新卒採用者数の推移	236
◆平均勤続年数	236
◆制度利用者数	238
◆【グラフ】度数率(災害発生率)推移	241
◆【グラフ】定期健康診断受診率	243
◆【グラフ】生活習慣病健康診断受診率	243
◆お取引先とともに「CSR 調達の推進」(書面調査社数)	288
◆【グラフ】世界における富士通グループの出願中・登録中特許	331
◆【グラフ】各地域の出願中・登録中特許比率	331
◆日本特許登録件数ランキング	332
◆米国特許登録件数ランキング	333
◆従業員数、取締役数	336

本報告書は、揭示情報の信頼性に関して一般社団法人サステナビリティ情報審査協会の定めるサステナビリティ報告審査・登録マーク付与基準を満たしていることを示す、「サステナビリティ報告審査・登録マーク」が付与されています。



- [一般社団法人サステナビリティ情報審査協会](#)

「GRI サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第 3.1 版（G3.1）」への準拠

本報告書は GRI アプリケーション・レベル B+に該当します。
GRI ガイドライン対照表は下記ウェブサイトに掲載しています。

- [社会・環境報告書 2013 GRI ガイドライン対照表](#)